

四半期報告書

(第56期第3四半期)

自 2018年10月1日

至 2018年12月31日

MESCO

三井金属エンジニアリング株式会社

東京都墨田区錦糸三丁目2番1号

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
第2 事業の状況	2
1 事業等のリスク	2
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
3 経営上の重要な契約等	2
第3 提出会社の状況	3
1 株式等の状況	3
(1) 株式の総数等	3
(2) 新株予約権等の状況	3
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	3
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	3
(5) 大株主の状況	3
(6) 議決権の状況	4
2 役員等の状況	4
第4 経理の状況	5
1 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
2 その他	12
第二部 提出会社の保証会社等の情報	13

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年2月8日
【四半期会計期間】	第56期第3四半期（自 2018年10月1日 至 2018年12月31日）
【会社名】	三井金属エンジニアリング株式会社
【英訳名】	MESCO, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 青木 一彦
【本店の所在の場所】	東京都墨田区錦糸三丁目2番1号
【電話番号】	03-5610-7833
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部経理部長 伊藤 直之
【最寄りの連絡場所】	東京都墨田区錦糸三丁目2番1号
【電話番号】	03-5610-7833
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部経理部長 伊藤 直之
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第55期 第3四半期連結 累計期間	第56期 第3四半期連結 累計期間	第55期
会計期間	自2017年4月1日 至2017年12月31日	自2018年4月1日 至2018年12月31日	自2017年4月1日 至2018年3月31日
売上高 (千円)	28,445,115	24,005,181	38,570,261
経常利益 (千円)	1,698,090	1,510,615	2,297,771
親会社株主に帰属する四半期（当 期）純利益 (千円)	1,161,449	1,051,155	1,556,570
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,250,279	1,031,736	1,762,740
純資産額 (千円)	13,289,595	13,990,834	13,802,056
総資産額 (千円)	23,394,535	21,349,581	22,774,770
1株当たり四半期（当期）純利益 金額 (円)	90.94	82.30	121.87
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	56.8	65.5	60.6

回次	第55期 第3四半期連結 会計期間	第56期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2017年10月1日 至2017年12月31日	自2018年10月1日 至2018年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	52.92	45.38

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 「売上高」には、消費税等は含まれておりません。
3. 「潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額」については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態及び経営成績の状況

① 経営成績

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や設備投資は堅調に持続しましたが、米中の貿易摩擦や欧州の政治的不安などから、世界経済に影響が出始めた結果、一部の業種において輸出の減速が見られるなど、景気は踊り場局面に入る様相となりました。

建設業界においては、都市部の再開発や自然災害からの復旧・復興に対する需要は継続してあるものの、深刻な人手不足や資材価格の高止まりなどの影響が続いており、ほぼ横ばいの景況感となりました。

このような状況の中、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は24,005百万円（前年同四半期比 15.6%減）となりました。

損益面では、減収により、営業利益1,445百万円（前年同四半期比 12.1%減）、経常利益1,510百万円（前年同四半期比 11.0%減）となりました。

また、法人税等を控除した親会社株主に帰属する四半期純利益は1,051百万円（前年同四半期比 9.5%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

a. エンジニアリング事業

非鉄製錬関連・金属加工関連の分野で、前年同四半期より完成高が減少したことなどにより、売上高は19,642百万円（前年同四半期比 19.2%減）となりました。

また、損益は、この減収に伴い、経常利益は2,034百万円（前年同四半期比 4.1%減）となりました。

b. パイプ・素材事業

研究所施設配管工事、トンネル内配管工事などの売上により、売上高は4,408百万円（前年同四半期比 5.5%増）となりました。

また、損益は、品質対策強化のためのコスト増などにより、経常利益は44百万円（前年同四半期比42.6%減）となりました。

② 財政状態

当第3四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末と比較して、受取手形・完成工事未収入金等が減少したことなどにより、1,425百万円減の21,349百万円となりました。

負債については、支払手形・工事未払金等が減少したことなどにより、1,613百万円減の7,358百万円となり、また、純資産は188百万円増の13,990百万円となりました。

この結果、自己資本比率は 65.5%となりました。

なお、当第3四半期連結会計期間末において、借入金等の有利子負債はありません。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の総額は、21百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	32,000,000
計	32,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2018年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2019年2月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,780,000	12,780,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 100株
計	12,780,000	12,780,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2018年10月1日～ 2018年12月31日	—	12,780,000	—	1,085,350	—	684,400

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2018年12月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 7,900	—	単元株式数 100株
完全議決権株式 (その他)	普通株式 12,769,400	127,694	同上
単元未満株式	普通株式 2,700	—	—
発行済株式総数	12,780,000	—	—
総株主の議決権	—	127,694	—

② 【自己株式等】

2018年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
三井金属エンジニアリング株式会社	東京都墨田区錦糸三丁目2番1号	7,900	—	7,900	0.06
計	—	7,900	—	7,900	0.06

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。）に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）により作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2018年10月1日から2018年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2018年4月1日から2018年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	2,198,753	1,892,076
受取手形・完成工事未収入金等	※ 10,630,001	※ 8,616,652
未成工事支出金	1,294,061	1,895,574
商品及び製品	345,803	221,189
材料貯蔵品	251,908	382,565
前渡金	213,487	25,004
預け金	5,140,579	5,773,828
その他	248,187	150,974
貸倒引当金	△11,725	△9,008
流動資産合計	20,311,057	18,948,857
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	576,829	578,956
機械・運搬具	1,879,834	1,917,138
工具器具・備品	912,314	923,565
土地	1,099,000	1,099,000
建設仮勘定	3,485	6,280
減価償却累計額	△2,909,207	△2,993,334
有形固定資産合計	1,562,255	1,531,606
無形固定資産		
ソフトウェア	59,799	52,422
その他	7,974	7,974
無形固定資産合計	67,774	60,396
投資その他の資産		
投資有価証券	49,899	51,946
繰延税金資産	520,837	512,235
退職給付に係る資産	100,455	87,056
その他	173,134	168,127
貸倒引当金	△10,644	△10,644
投資その他の資産合計	833,682	808,721
固定資産合計	2,463,712	2,400,724
資産合計	22,774,770	21,349,581

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	4,636,616	3,620,298
未払法人税等	562,560	311,642
未成工事受入金	1,566,596	903,787
賞与引当金	383,900	197,000
役員賞与引当金	38,000	—
完成工事補償引当金	123,100	125,700
工事損失引当金	220,200	146,500
その他	319,334	936,983
流動負債合計	7,850,308	6,241,911
固定負債		
退職給付に係る負債	1,042,374	1,047,330
役員退職慰労引当金	52,405	41,890
繰延税金負債	626	614
その他	27,000	27,000
固定負債合計	1,122,405	1,116,834
負債合計	8,972,714	7,358,746
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,085,350	1,085,350
資本剰余金	684,400	684,400
利益剰余金	12,078,181	12,286,381
自己株式	△6,524	△6,526
株主資本合計	13,841,407	14,049,604
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	9,225	△1,294
為替換算調整勘定	△52,686	△86,472
退職給付に係る調整累計額	4,110	28,996
その他の包括利益累計額合計	△39,350	△58,769
純資産合計	13,802,056	13,990,834
負債純資産合計	22,774,770	21,349,581

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
売上高		
完成工事高	26,293,797	21,198,876
兼業事業売上高	2,151,317	2,806,304
売上高合計	28,445,115	24,005,181
売上原価		
完成工事原価	23,003,383	18,086,374
兼業事業売上原価	1,867,008	2,433,242
売上原価合計	24,870,391	20,519,616
売上総利益		
完成工事総利益	3,290,414	3,112,502
兼業事業総利益	284,309	373,062
売上総利益合計	3,574,723	3,485,564
販売費及び一般管理費	1,929,521	2,039,976
営業利益	1,645,201	1,445,587
営業外収益		
受取利息	46,974	49,878
為替差益	4,685	551
持分法による投資利益	—	1,325
雑収入	14,222	15,550
営業外収益合計	65,882	67,305
営業外費用		
支払利息	47	48
持分法による投資損失	10,619	—
貸貸収入原価	1,613	1,332
雑支出	713	897
営業外費用合計	12,993	2,277
経常利益	1,698,090	1,510,615
特別利益		
固定資産売却益	27	—
会員権売却益	4,423	—
特別利益合計	4,450	—
特別損失		
固定資産除却損	1	311
会員権評価損	3,000	—
特別損失合計	3,001	311
税金等調整前四半期純利益	1,699,539	1,510,304
法人税等	538,090	459,148
四半期純利益	1,161,449	1,051,155
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,161,449	1,051,155

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	1,161,449	1,051,155
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	38,000	△10,519
為替換算調整勘定	38,677	△34,506
退職給付に係る調整額	9,632	24,886
持分法適用会社に対する持分相当額	2,519	721
その他の包括利益合計	88,830	△19,418
四半期包括利益	1,250,279	1,031,736
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,250,279	1,031,736

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※ 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
受取手形	79,660千円	73,111千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
減価償却費	107,341千円	105,770千円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年6月23日 定時株主総会	普通株式	689,691	54.00	2017年3月31日	2017年6月26日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月22日 定時株主総会	普通株式	842,955	66.00	2018年3月31日	2018年6月25日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2017年4月1日至2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	エンジニアリング事業	パイプ・素材事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	24,291,092	4,154,022	28,445,115
セグメント間の内部売上高 又は振替高	29,071	24,907	53,979
計	24,320,164	4,178,930	28,499,094
セグメント利益	2,120,220	77,252	2,197,473

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	2,197,473
全社費用(注)	△499,383
四半期連結損益計算書の経常利益	1,698,090

(注)全社費用の主なものは、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	エンジニアリング事業	パイプ・素材事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	19,642,518	4,362,663	24,005,181
セグメント間の内部売上高 又は振替高	278	46,133	46,411
計	19,642,796	4,408,796	24,051,593
セグメント利益	2,034,152	44,338	2,078,491

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	2,078,491
全社費用(注)	△567,875
四半期連結損益計算書の経常利益	1,510,615

(注)全社費用の主なものは、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3 四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3 四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	90円94銭	82円30銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	1,161,449	1,051,155
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額 (千円)	1,161,449	1,051,155
普通株式の期中平均株式数 (千株)	12,772	12,772

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年2月8日

三井金属エンジニアリング株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 細矢 聡 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 永峯 輝一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三井金属エンジニアリング株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2018年10月1日から2018年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2018年4月1日から2018年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三井金属エンジニアリング株式会社及び連結子会社の2018年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。